

# EDELWEISS

JUL & AUG 2022

## 心を解きほぐす開放的な夏

暑いですね～！夏ですね～！

人類が新型コロナウイルスと遭遇してから3度目の夏ですが、隣国でもようやく本格的に観光客が戻って来ているようです。

復活祭前後では既に、ドイツの海辺やナポリなどではホテルがパンクしていたそうです。それでも隣国は未だに、公共交通機関や劇場内などではマスクを義務付けています。スイスではマスク解禁が早かったので、つい持ち歩くのを忘れてしまいそうです。皆様も国外にお出掛けの際は、FFP2などの種類と共に、再度ご確認ください。

勤勉な国、日本に育ち、貧乏性なので、自分には働く方が、パカンスより性に合っていると思っていました。しかし、コロナ禍と地続きの戦争ですっかり心身共に凝りが溜まっていたようで、先日取材のついでに行ったローマ遺跡やカプリ島では、言葉通り魂が共鳴し、心が解されました。

皆様も今年の夏は是非、湖にボーッと浮かんだり、森をじっくり歩いたり、旅行に出掛けられる方も、好きな何かと周波数を合わせるようにしてみてください。予想以上の幸福感が得られます。そんな開放的な夏の過ごし方、ずっと忘れてました…。そして、伝言板やイベント情報などもご活用頂き、たっぷり楽しんで充電しておいて下さい。

秋にはまた次のコロナ波が来ることが予想されています。それまでにしっかり自分を取り戻しておきたいものです。そして夏の間に蓄積した皆のパワーで、今度こそ新型コロナウイルスがインフルエンザ並に弱毒化しますように。ご健康で、楽しい夏休みをお過ごし下さいませ！(SN)



DER SOMMER IST DA!

## チューリッヒ湖畔のイベント

チューリッヒ湖って、心を解きほぐす開放的な夏があり、観覧船もあり、贅沢な場所ですね！先日、日本のオンラインフェスティバルでZoomを通したチューリッヒ湖からの生中継を頼まれ、初体験しました。湖水浴客や売店の売り子さんも温かく参加してくれたり、コロナ禍を経て、皆、ちょっとオープンに、優しくなった感じ？皆様もご家族やお友達向けに如何ですか？



### ▼ 巻頭文

「侵され続ける日本の食料安全保障」 青砥 玄 (会長)

### ▼ 私のイチオシ、シェアします! Vol.26

「ロンドンからチューリッヒへ ドライブ旅行記 (復路)」 長田 忠雄さん

### ▼ 古典籍スクール Vol.8

「寺子屋 (その5) 職業別の教科書」 ブランド 啓子

### ▼ 美のプリズム Vol.17

「メルツバッハー・コレクション」 柿沼 万里江

### ▼ Kette(会員の輪) Vol.160

藤田 万智子さん (チューリッヒ在住)

## 巻頭文 「侵され続ける日本の食料安全保障」

青砥 玄 (会長)

コロナ禍とウクライナ問題は私たちに、幸福の基本的な基盤としての安全保障と健康の大切さ、並びにグローバルにつながった世界の脆弱性を気づかせるきっかけとなりました。特にエネルギーや食料は、それ自身が安全保障の対象になることを痛感させられています。

そんな中で日本の現状に目を向けて見ると、日本の食料自給率が、先進国の中で著しく低いという現実に突き当たります。食料を自前で確保できるようにすることは、独立国家として最低限必要なことであるにも拘らず、主要国の穀物自給率を見ると、日本はわずか37%です。アメリカ130%、フランス127%などの食料輸出国は別にしても、ドイツ95%、イギリス63%と欧州の平均的な国と比べても段違いに低く、人口超大国の中国、インドですら100%、90%とほぼ食料自給を達成しています。

時代は遡りますが、日本はかつて鎖国をしていたわけですから、当時食料自給率は100%だったわけです。ということは政府がやる気になれば100%は無理だとしても、自給率をもっと高めることは可能ということです。

ペリー来航以来、開国を強要された日本は、不平等条約を結ばされ、ある意味ほかのアジア諸国と同じくペリーの餌食になりつつありました。しかしながらそんな中でも、日本人は独立の気概を持ちながら、時間はかかりましたが、平等を勝ち取る努力をしてきました。

その後、第二次世界大戦で東京をはじめ大都市が焼け野原となっただけでなく、2発目の原爆まで落とされ、無条件降伏以外の選択肢が与えられないまま敗戦を迎えました。結果としてGHQによる約7年の占領により主権のない状態が続く、その間民主化の名の下に恣意的に日本の良き伝統的な精神、文化が次々と破壊されてゆき、今日もその影響が強く残っています。

ジャーナリストの田中良紹氏の「コロナ禍で考える戦後日本の構造的弱点」という記事は考えさせる内容ですので以下ご紹介いたします。

「私が日本の食料自給に関心を持つようになったのは、1981年秋に米国のコメ作りを取材した時の驚きの経験があるからだ。その頃、米国の水田面積が拡大していることに興味を持ち、「なぜコメを食べない米国で水田面積が拡大するのか」を取材しに行った。

最大のコメどころである南部アーカンソー州に全米最大の精米工場がある。社長は前農務次官だった。彼の説明によれば、米国は欧州各国に農産物を輸出していたが、欧州が共同体を作り域内の関税を撤廃したため、米国の農産物が売れなくなった。

そこで欧州で作れない作物を考えた。コメは寒冷地に不向きでイタリア南部とスペインでしか作れない。そしてもう一つ、米国には戦後の日本でコメ食の国民をパン食に変えた成功体験がある。カギは学校給食で子供にパンを食べさせたことだ。子供に味を覚えさせ

れば大人になってもパンを食う。米国産小麦をいつまでも日本に輸出することができる。

米国はその逆を考え、欧州の子供たちにコメを食べさせる計画を作った。スイスのチューリッヒに本部を置き、「コメは完全栄養食品だ。子供の健康にはコメを！」という宣伝文句で活動を始めた。コメのピザ、コメのスパゲッティ、コメのサラダなどレシピも数多く考えていると言う。それが米国で水田面積が拡大している理由だった。

戦後生まれの私はコッペパンと脱脂粉乳の給食を食べた世代である。学校の教師から「コメを食べると頭がぼける」とか「ビタミンB1不足で脚氣になる」と言われた。そしてコッペパンと脱脂粉乳は食料難の日本の子供を助けるための米国の援助だと思い込んでいた。

ところがそれが違ったのだ。米国は日本に小麦の生産をやめさせ、米国の農産物に頼るよう仕向けるため、我々にコッペパンと脱脂粉乳の学校給食を与えた。私が子供の頃に見ていた麦畑の光景はいつかなくなり、日本人の食生活はどんどん欧風化していった。

それにつれて日本の食料自給率は低下し、敗戦の翌年に88%あった自給率は今や37%しかない。つまり6割以上を外国に頼っている。先進国で自給率が50%を切るのは日本と韓国だけだが、両国に共通するのは米軍に国家の安全保障を委ねているということだ。」

グローバル企業の金もうけのためなら手段を選ばず、政府と手を組んで相手国の市場をも変えてしまおうとするその姿勢は私達には想像しがたい世界かもしれないが、これが何と過去から今日に到るまで起こっている現実なのです。(話は変わりますが、より優れた日本発のコンピュータOSTRONが米国によって意図的に潰され、マイクロソフトのWindowsが世界市場を独占したのは有名な話です。)

ではこのアメリカの食料戦略によって日本では何が起きているのでしょうか。

心と体の健康を目指し、西洋・東洋医学を包括して治療する医師、誠敬会クリニック銀座の院長・吉野敏明氏は「戦後日本人がそれまで食べてこなかった小麦粉、牛乳、油炒めなどを採り始めて、50年で日本人のガンは3.8倍、糖尿病は50倍になりました。日本人は小麦依存症、炒め油依存症になってしまいました。伝統的な日本の食事(玄米と味噌汁、小魚の佃煮、海苔、漬物など)を採っている方でガンになった方は居ません。ガンは遺伝子の病気ではありません、明らかな食源病です。」と断言されています。

「食の安全保障」を確立しなければ危ない食品が日本に集まる！と訴える東大・大学院教授の鈴木宣弘教授は、自らが農水省に勤務し長年国際交渉を担当し、アメリカの戦略を身近で体験された裏事情を自著「農業消滅」で、暴露されています。氏は食と農を犠牲にした貿易の自由化、種子法の廃止・種苗法改定などの制度変更、改革という名の農協解体

云々、農業従事者を苦しめる政策が続けば日本は必ず飢餓に陥る！と恐ろしい警鐘を鳴らされている専門家です。

鈴木教授はその著書で、自分がとても驚いたことを記されています。農業が盛んなウイスコンシン州の農業経済大学の授業で、教授は「皆さん良いですか、標的は日本です。直接食べる食料ばかりでなく、エサ穀物が大鳥なのです。東の海に浮かんでいる小さな島国の人はよく動くが、勝手に動かされては困る。それを餌で引っ張るのです。これがアメリカの戦略で、あなた方が国力をかけてそれを推進するのです！」と農家のお子さんが多い授業で国家戦略を教えていたと言うのです。

更に鈴木氏は、「大豆」は日本の多くの発酵食品の材料ですが、その日本の自給率は何と6%しかなく、アメリカの大豆は遺伝子組み換えとなっており、除草剤を大量にかけても枯れない大豆で、それが大量に日本に輸入されている。だから調査をすると日本の大豆で作る製品のほとんどから除草剤の成分が出てくる。それを日本人が日々食べている訳です。唯一豆腐などで、遺伝子組み換えでない并表示されている製品がありますが、それも2023年4月から表記がされなくなります。ゆえにNONGMOの大豆を製造する業者が減少しているのです。また「ゲノム編集」というものがあり、欧州では遺伝子組み換えと同等の規制対象として検査をして表示義務が課されていますが、日本だけがアメリカの圧力で2019年から完全野放し状態となってしまっています。

また、質の問題もあり、アメリカから農薬や食品添加物の基準を緩めるようにという、要望リストがたくさんあり、日本はそれに従って順次緩めています。また、成長ホルモンのエストロゲン入りの牛肉は、EUでは禁止されているのですが、日本へは輸出され販売されています。結果的に日本では戦後、各種アレルギーやガンが著しく増加しています。同時にその治療のために薬をアメリカから大量に輸入しているのです。こうした利権構造の輪をどこかで断ち切らないと日本は国家存亡の危機につながってゆくと訴えられています。こういった現実をまずは私たちが正しく認識することが大切で、それを正す努力が必要です。

中共、ソ連、北朝鮮の3国に挟まれた日本の安全保障は米軍抜きでは考えられず、アメリカにある意味依存せざるを得ない状況ではありますが、このままでは気付かぬうちに国民の健康は破壊される一方で、特に将来を担う子供達の健康は誰が守るのかと深く考えさせられます。政府がやらないならば、私たち一人一人が関心を持ち、できる範囲内でも努力してゆきたいものです。

参考文献: 田中良紹  
「コロナ禍で考える戦後日本の構造的弱点」  
Yahooニュース記事より  
2020/8/4掲載



ご意見・ご質問は青砥まで  
Gen.Aoto@toyota.ch

前回のロンドンへの車の旅、復路は北フランスを中心に予定を立てましたがトラブル発生。ロンドン市内の大交通渋滞に巻き込まれ、ポーツマスから出るサン・マロ行きのフェリーに乗り遅れることに。昔もよくロンドン・シティーのオフィスから出張でヒースロー空港に向かう途中、市内の渋滞に巻き込まれ何度も冷や汗をかいたことをすっかり忘れていました。幸い数時間後にシェルブール行きのフェリーに空きがあるとのこと、1960年代のフランス映画「シェルブールの雨傘」で一躍有名になった港町であり、一度行ってみたいかったから、まいいか、と気持ちを切り替えます。

フェリーは全乗船客の客室完備の大型船で、これがまたホテルのようにバスタイレ完備の清潔で快適な客室、食事も美味しく、これまで抱いていた、「船の旅は退屈そうで気が向かない」という固定観念を根底から覆してくれることになり、船の旅も楽しそうで本格的な船のクルーズを考えるきっかけになりました。



翌朝シェルブールに入港。街の中心地であるド・ゴール広場では朝市が始まっており、水揚げされたばかりの見るからに新鮮な魚介類、スイスではあまり見かけない珍しい野菜や果物が所狭しと並べられている。待ち遠しい昼食は波止場のレストランで食欲をそそる生ガキやエビ、大きなカニの甲羅にはカニ味噌がずっしり入っており、思わず感嘆の叫びをあげるほどの海の幸に大感激。

どちらかといえば寂れていたであろうこの港町が「シェルブールの雨傘」のおかげで世界的な観光地に変身したわけだから、正に主演女優のカトリーヌ・ドヌーブ様様、大ヒットの主題歌となった「I will wait for you」のおかげというべきか。地元のおばさんに聞いたところでは、普段は雨の多い港町だそうです。映画撮影当日には何日も雨が降らなかったのも、街を挙げての協力体制を敷き、地元消防団がホースで雨を演出し撮影成功となったとか。撮影に使われた雨傘屋も当時のままで、貴重な観光資源として今でも世界中の観光客を引きつけています。

その後サン・マロ湾の海岸線を走りながら田園地帯を抜けるといきなり目に飛び込んで来るモン・サン・ミッシェルの巨影は感動的。11世紀にはこの巨大な修道院の原型ができていたというのだから当時の建築技術の高さに驚くと同時に、堂々たる世界遺産に圧倒されます。今はバスが通るコース



STADT, BERG ODER INSEL?  
私のイチオシ、シェアします!

ロンドン→チューリッヒ  
ドライブ旅行記  
(復路)

長田 忠雄

ウェイが出来ているから楽ですが、その昔はサン・マロ湾の潮の干満が激しく巡礼者が随分と命を落としたというのも頷けます。島内の道は狭く、十字架を背負ってキリストが歩いたというエルサレムの苦難の道、ヴィア・ドロローザを連想させます。

サン・マロから車で30分ほど海岸線を西に向かうと、何とも豪勢な高級リゾート地、ディナールがあります。起伏のある景勝地で、ヨットが浮かび海水浴の白浜が続く。19世紀以降、イギリスのウェールズ侯が休暇によく滞在していたという場所、今でもイギリスやフランスの富裕層に人気のスポットだそうです。なるほど、世のお金持ちはこういうところに隠れ家的に別荘を持っているという感じで、豪華ホテルの周りには重厚ながらも上品な邸宅が多く並んで海を見下ろしています。往年の名車、マスタングのオープンカーに乗って高級ホテルにチェックインするところだった、ウェールズから来たというイギリス人の老夫婦に出くわしましたが、4泊して夫婦でゴルフを楽しむとのこと、見るからに優雅な雰囲気を感じさせており、老後の人生はこうありたいという羨望を感じさせます。ともかく街全体がとてもファッションブルで、入ってみたいくなるレストランやブティックが並ぶ。コーヒーと一緒に頼んだブリターニヤ特産のバター・クレープの美味しさは忘れられないほど、とてもリッチな気分になってくれました。休暇には絶対にここに帰って来たい。



そして今回の主な目的地であるノルマンディー地方の古都ルーアン。モネも描いたノートルダム大聖堂は、繊細な彫刻が全体にちりばめられ、大聖堂自体が巨大な一つの芸術品のように見る人達を圧倒し、モネでなくとも画家なら一度は取り組みたい画題だろう、と思わせませう。ノルマンディー地方が多くのフランス印象派の画家に愛され、ルーアン派と言われる一派がここから生まれたというのも頷けます。思わず息を飲んだまま動けなくなってしまうほどのド迫力。

それから、フランスの国民的ヒロインとなったジャンヌダルクが、神の啓示を受けて15世紀に彗星のごとく現れ、劣勢だった英仏戦争で逆転勝利を収めるという歴史の大ロマンに思いを馳せました。最後はイングランド軍に引き渡されてルーアンに連行され19歳で火刑に処せられたという、波乱万丈の人生を送ったオルレアン乙女。ジャンヌダルク教会の前にあるヴュー・マルシエ広場が火刑のあった場所だそう。



また街のシンボルとなっているルネサンス様式の大時計台は14世紀に造られてから現在まで時を刻み続けているとか。あまりの美しさに見とれたまま時計台の下を通り過ぎてしまいました。この時計台の中も見学できた事は後で知ること。ここに居るだけでルネサンスの時代に生きているような錯覚を起こすのは決して誇張ではない、という気になります。

次の街、夏の国際音楽コンクールでも有名なブザンソンは、丘の上の城塞が世界遺産にも登録されていて、「レ・ミゼラブル」の作者、ピクトル・ユーゴーの生家もあり、現在はユーゴー資料館となっていて半日程度の観光には最適。ピクトル・ユーゴーの生家では「レ・ミゼラブル」の初期の頃の映画を上映しており、ジャン・ギャバンが深い演技を見せていました。このビデオが欲しくて聞いたところ、残念ながらももう販売されていないとのこと。何度見ても感動の傑作と言えます。

往路は約1000キロ、復路はほぼ倍の2000キロを走行し、すっかり長距離運転の自信がつかしました。同時にフランス文化を始め、ヨーロッパ文化の探訪には車が有効であることも改めて実感できたのは大きな成果でした。近い将来には自動運転車両も視野に入るとして、高齢者にとっては益々快適な車の旅の未来が近付きそうです。

### 1. 寺子屋 (5) 職業別の教科書

以前 (古典籍スクール3) 寺子屋の教科書『往来もの』(生活に必要な各種の知識を手紙 (= 往来) 体の文章の中に織り込んだものは7000種にも及び、結果的には数万存在するとお話ししました。しかし寺子屋以前にも、源氏物語などの物語文学や和歌集、歌論集、算術書、歴史書などなど、上流階級向けの書物は数多くあったのです。けれども、江戸期に寺子屋が全国に普及したお陰で、一般の人々の知識も深まり、文化的な生活の質も向上し、職業に関しての実生活の知識も深まってきました。

### 2. 文字の重要性

寺子屋の教科書にはさまざまな実用知識が詰め込まれています。まずは「商売往来」。似たような内容の教科書がこれでもかと言うように、明治初期まで果てしなく出版されました。

「商売往来絵字引」「現金商売往来」「萬家重訓 商売往来講釈」「世界商売往来」「続世界商売往来」「続々世界商売往来」「万国商売往来」「万国新商売往来」...といった具合です。また「田舎往来」「百姓往来」「諸職往来」「神社仏閣柱建往来」、深まり、文化的と更に専門的なものもあります。

商売往来の内容は「凡商売持扱文字」(およそしょうばいは もじを とりあつかい) で始まり、取遣り日記 (物のやり

とりの記録)、証文など商売の取引に必要な文字、数字、証文、日記の類、大判・小判から灰吹に至るまでの金子 (貨幣) の名称、そしてありとあらゆる類 (たぐい) の名称、用語などが詰め込まれています。のちに出た図入りの「商売往来絵字引」などの細密で美しい彩色画とそこに付されている説明文は、簡潔明瞭でまさに芸術的とも呼べるものです。



初編は文政末から嘉永頃(1829~53)  
奈良教育大 古典籍データベース

「商売往来」は定型化しており、商売に必要な知識を得て家業に励み、余力で更に学べと自分に応じた学びを説いて、最後には必ず 人として学ぶべき身の処し方を示すのです。商人としては「全て浪費せず、高利を貪らず、見世棚 (店の棚) を綺麗にして柔和に応答し天道の働きを恐れるものは富貴繁盛子孫栄華と倍々利潤疑いなし」つまり、「お天道様が見ていらっしゃる。」これはあらゆる職業に当てはまるため、商人のみならず、子供の学習教科書として実業を学ぶために各地でよく読まれ使用されました。

### 3. 豊かな趣味

「商売の家に生まれた輩は幼稚の時より手跡・算術を行うを肝要とし、歌・連歌・茶湯など芸能の稽古事は家業の余力ある時 折々に心掛けるをよしとし小唄・三味線などの遊芸事、泉水・築山などの家宅の造作などは分限に應ずるをよしとする。」余力があればどんどん広げる自分の趣味。なんと豊かなことでしょう。

窮屈とされていた身分は実は流動的で、武家階級から農民へまたその反対もかなり自由でした (豊臣秀吉など)。旧越後長岡藩の家老、稲垣茂光の六女だった杉本鉞子の「武士の娘」(筑摩叢書 97(1967)) によりますと「一番上の姉の嫁ぎ先は農家で、武家の娘はよく農家に嫁いだものでありましたが、農は士に次ぐ階級として尊ばれ、「米のなる木のその山里は、神代 ながらの大黒柱」などという百姓衆の元気な歌声を」幼い頃から聞いて育ったとのことでした。

文字を習い文字を駆使して教養を深めた趣味人は 全国津々浦々に散らばっていて、俳句の聖人と呼ばれた松尾芭蕉 (1644-1694) の『歌枕 (多くの人が和歌によみ込んだ名所) や歴史』を探る旅「奥の細道」(1689-1691)も可能だったのです。みちのくの奥にさえも、俳人達がい、芭蕉との交流を楽しみました。茶室のルールが示すように、趣味の世界には身分の違いはありませんでした。

次は貸本屋についてです。  
どうぞお楽しみに!



## BULLETIN BOARD

### チューリッヒ日本人学校補習校 入学・編入受け付け：随時

#### 2023年度 (4月入学) 申請受け付け中

※詳細は本校HPをご覧ください

#### 募集要項

小学部 1年 午前クラス・午後クラス  
幼稚園部 午前クラス・午後クラス

- ・申請書をお送りください
- ・クラス分けは2023年1月28日に行います
- ・クラスが成立しない場合、ご希望に添えない場合もあります
- ・各クラスとも定員に達し次第、順番待ちとなります
- 2023年度入園・入学申請は、今しばらくお待ちください

#### 問い合わせ先

Japanische Schule (Hoshuko)  
TEL : 044 - 941-1554 電話での問い合わせ : 土曜日  
E-mail : hoshukoz@hotmail.com  
HP : www.jszurich.ch

#### team104東北支援バザー

9月18日 (日)、3年ぶりのバザーを予定しております。コロナの状況を見て夏休み明けに決定し、詳細をお知らせ致します。それまで皆様どうぞ健康にご留意の上、良い夏をお過ごしください。  
\*お問合せ、日本の工芸品・和食器等のご寄付受付先: junkostuder@sunrise.ch  
齋藤 seiundo@bluewin.ch

#### HIBIKI — 響 —

##### ～フラメンコと和の調べ～

林 結花 ロッハー葵  
2022年10月23日 (日) 昼公演  
於Theater Stok Zürich  
チケット www.skkz.ch  
お問合せ hibiki@ven-paca.com 林

#### 日本の響きコンサート『黒髪』

2022年9月4日 (日) 11:00  
Zunfthaus zur Waag, Münsterhof 8,  
8001 Zürich 入場無料、Kollekte  
「箏曲地唄、春の海、民謡、他」  
竹下数雄 (テノール) 酒井佐保子 (三味線) 林智津子 (箏) 竹下

#### 家庭教師いたします

Zurich近郊で、日本での各種科目 (高校受験まで) の家庭教師をいたします。難関中学の受験経験あり、京都大学理学部卒業、塾・家庭教師での指導経験あり。その他、ご要望に応じ、出来る限り対応させていただきます。詳細下記までお気軽にお問い合わせください。  
ヤスナガ  
ZurichJapanTeacher@gmail.com

#### JAPAN FOOD FEST IN ZUG

7月16-17日、ZugのBurgbachsaalで JAPAN FOOD FEST開催されます。出展者も募集。ブースの大きさにより、300~600フラン

申し込み先:  
https://bit.ly/regde-jfff22 独語  
https://bit.ly/reg-jfff22 英語  
問い合わせ先 : Pia Henzelmann  
pr@unreal-entertainment.net



Grüezi mitenand!  
今月のスイスドイツ語講座

先日、Zoomミーティングでスイスの夏の様子を日本の知り合いに聞かれた時、別のスイス在住者が「暑くなると、泳ぎに行こう！じゃなく、涼を取りに行こう！って感じで、湖に浸かりに行くよね～」と同意を求めてきました。本当にそうですよね～！

そんなわけで、久しぶりにスペースができた「今月のスイスドイツ語」、テーマは「涼を取りに行こう！」

① Ahh hütt isch so heiss!

ア～、ヒュット イシュ ソー ハイスイ！  
「あ～、今日は超暑いねえ！」

② Gömmer id Badi als Erfrischig!

ゲメル イドゥ バディ アルス  
エルフリッシック  
「湖に涼を取りにいこうよ！」

③ Mier chönd dänn

au no Würschtli brötle.  
ミエル ホントゥ デン  
アオ ノー ヴェルシュトゥリ プレートレ  
「そこでソーセージも焼こう。」



Kunsthhaus Interlaken  
Emil Zbindenと川上 澄生展

Emil Zbinden  
Kawakami Sumio  
Kunsthhaus Interlaken  
16.6. - 25.8. 2022



スイスと日本、全く接点が無かったにもかかわらず、版画の作品の題材や作風にみられる類似点に着目した展覧会です。以前JCZにも深く関わっていたErich Stuhlraeger、中西眞理さんご夫妻のご尽力もあって実現しました。ぜひ足をお運びください。HPもご参照ください。

Kunsthhaus Interlaken  
Jungfraustrasse 55  
CH-3800 Interlaken  
<https://kunsthhausinterlaken.ch>

【在スイス日本国大使館からのお知らせ】

(1) 領事出張サービスのご案内

日時：2022年8月6日(土) 10:00-12:00, 13:00-15:00  
場所：チューリッヒ日本人学校 日本式2階音楽室  
実施時間は変更する可能性があります。  
出張サービス申込受付：2022年7月21日(木)必着

(2) 日本の水際対策の変更（入国時検査等の免除等）

6月1日（日本時間）以降、スイスから日本に入国される方の主な変更点

【入国後検査、入国後待機がなくなります】

スイスからの入国者に対しては、ワクチンを3回接種したか否かにかかわらず、日本入国時の検査及び、入国後の自宅等待機はなくなります。

【日本入国前の手続きは変更無し】

日本入国前手続きは、これまでお知らせしている必要な書類の準備に変更はありません。「出国前72時間以内のPCR検査陰性証明書」（16歳以下の子供でも。回復証明書では不可。）「誓約書」、「質問票」、「各種アプリの登録」は、これまでどおり求められます。

【入国制限の更なる緩和（外国籍者対象）】

外国籍の方が日本に入国するには、引き続き査証取得が必要となります。6月10日より、旅行代理店等を受入責任者とする観光目的の短期滞在が新たに認められますが、こちらも査証の取得が必要です。在スイス日本国大使館または在ジュネーブ領事事務所に予約後、査証申請。詳しくはこちらをご覧ください。



(3) 第26回参議院議員通常選挙の在外公館投票の実施

公示日：6月22日(水)  
国内投票日：7月10日(日)

在スイス日本国大使館及びジュネーブ領事事務所での投票期間  
6月23日(木)から7月3日(日)まで(予定)  
投票時間：9:30～17:00

投票に必要なもの：在外選挙人証、旅券等の身分証明書

詳しくはQRコードからお読み取りいただくか、下記サイトからお問い合わせください。  
在スイス日本国大使館HP  
[www.ch.emb-japan.go.jp](http://www.ch.emb-japan.go.jp)



チューリッヒ発パリ経由羽田線  
毎日運航中!! 夏のご帰国はJALで。



安心・おトク!!

◎2022年8月31日までにご購入のヨーロッパ発の航空券は無料で予約変更可\* \* 変更により差額調整が発生する場合がございます。

◎羽田ラウンジご利用や宅配無料キャンペーンも!



詳しくはこちらから!

# 美 の プリズム

Vol.17



アンドレ・ドラン 《コリワール港のポート》1905年

## メルツバッハー・コレクション

クストハウスの新館が去年の秋に開館したタイミングで、歴史家のエーリッヒ・ケラーは『汚染された美術館 クストハウスとビュールレ・コレクション』というセンセーショナルな暴露本を出版した。『美のプリズム』(2021年夏号)でも詳述したように、新館の建設とビュールレ・コレクションは切っても切り離されない関係にある。「武器商人」であるエミール・ゲオルク・ビュールレ(1890-1956)は、ナチスの迫害を受けたユダヤ人から没収した美術品を安く買い叩いた。戦争によって二重の甘い汁を吸ったいわば加害者側のビュールレに対し、ユダヤ人のヴェルナー・メルツバッハー(1928-)は戦争被害者として逆境を跳ね除け成功を掴んだコレクターと見なされている。被害者が加害者、善が悪かに白黒ははっきりと振り分けられるものではないが、とりあえず境遇が全く異なるコレクターの作品を受け入れ展示しているクストハウスは清濁併せ呑み懐が深いと果たして言えるだろうか、あるいはいいところ取りで節操がないのか。

ユダヤ人の医師と看護婦を両親にもつヴェルナーは、南ドイツで生まれ育った。1933年にナチスが政権を掌握すると、ユダヤ人攻撃が公然と行われるようになり、コンスタンツに住む祖父母の元へ一家は疎開した。両親はアメリカに亡命する準備をしていたが当局への書類申請が間に合わず、強制収容所に収監され、そして殺害された。戦争孤児となったヴェルナーは、1939年、他のユダヤ人の子どもたちと一緒にスイスに入国することが許可された。当時、3万人のユダヤ人をスイスは「亡命者」として受け入れたのだが、ヴェルナーはその1人だったのである。チューリヒのキリスト教の家庭に迎え入れられたヴェルナーは、映画監督になるのを夢見る少年であった。戦後、スイス国籍を得ようとしたが当局から拒否される。そこで、1949年にアメリカに移住

することを決意し、後に妻となるガブリエレ・マイヤーと出会った。

ガブリエレもユダヤ人の家系に生まれ育った。彼女の祖父ベルンハルト・マイヤー(1866-1946)はブリュッセルで毛皮加工を学び、そこで毛皮商を営んでいた。通常、動物の毛皮を剥ぐような(人のしたがない)仕事はユダヤ人に割り当てられた。商売は繁盛し、パリ、ベルリン、チューリヒ、アムステルダムに支店を持つようになる。1903年、どこの美術組織にも属していないジェームズ・アンソール(1860-1949)の作品をブリュッセルで購入し、この無名の画家を支援した。ここからマイヤーの美術収集が始まったのである。1920年代に集中してセザンヌ、ゴッホ、ルノワール、マティス、ピカソなどの作品を購入した。1926年、アナキストや前衛芸術家のたまり場であったアスコナの自由な空気に触れ、アスコナに家を建てた。同じく1926年、リートベルク美術館のコレクションの基礎をつくったドイツ人の銀行家エドゥアルト・フォン・デア・ハイト(1882-1964)がアスコナに家を建てているのも偶然ではないだろう。ナチスが台頭する前ではあるが、人々は束縛のない南の風を欲していたのだ。ベルンハルトはその後、アスコナでもスイスに亡命してきた多くの作家や画家をかくまい彼らを支援した。

この祖父のフィランソロピー精神を宿すコレクションを引き継いだのがガブリエレとヴェルナーなのである。1951年にアメリカで結婚したガブリエレとヴェルナーは、1960年代より本格的に絵画を収集するようになる。ヴェルナーもまたユダヤ人コネクションによりアメリカで毛皮商人となり、最終的にベルンハルトの事業を引き継いで会社を営み、1960年代の好景気に乗って莫大な富を築き、国際的に名声のある毛皮商會を率いた。1964年、長い

アメリカ生活に終止符を打ち、一家はチューリヒに移住した。

メルツバッハー夫妻が作品を購入する際の基準は「色彩が美しい」という一点に尽きる。美術史をフライブルクとミュンヘンの大学で専攻したビュールレが、教科書のように、一人の作家の初期から晩年まで、各ジャンル(歴史画、肖像画、風俗画、静物画、風景画)を網羅して収集するという頭腦的な「全方位型」なのに対し、感覚的な「色彩」や主観的な「幸福感」がメルツバッハー・コレクションに共鳴する琴線となる。

「私のコレクションの持ち味は色彩の喜びだ」。その筆頭にあげられるのは、フォーヴィスムの画家たちの作品である。1905年、パリで開催されたサロン・ドートンヌに出品された一群の作品は、原色を多用した強烈な色彩と激しいタッチに溢れていた。これを見た批評家が「あたかも野獣の檻、フォーヴの中にいるようだ」と評したことから命名された。フォーヴィスムを代表するマティスとドランは、1905年初夏、スペイン国境に隣接するフランス南西端の小さな村コリワールに滞在し、友情を育み、そして精力的に制作に励んだ。紺碧の海、降り注ぐ陽光、黄色、薔薇色、橙色で塗られた家々の外壁は街並みに豊かな彩りを与える。「感覚が研ぎ澄まされる美しい風景に囲まれて仕事をしていると、ふと考えてしまう。絵を描く上での規則や禁止事項などどうでもいいのではないか。わたしの色彩を響かせたいのではないかと、マティスは述懐している。凜風が部屋を吹き抜けるマティスの《シエスタ》と、空と海と大地が光によって一体化したドランの《コリワール港のポート》は、コリワールで制作された作品の中でも群を抜いて「色彩の喜び」に満たされている。メルツバッハー・コレクションの展示室に一歩足を踏み入ると、これら2点の作品が並んでわたしたちを迎えてくれる。マティスとドランの作り手の幸福感、絵を眺めるメルツバッハー夫妻の幸福感に包まれる。光が強くなればなるほど影は濃くなるはずなのに、これらの絵には影はない。メルツバッハー・コレクションは、これまでイスラエル、スイス、イギリス、日本で公開されてきた。しかし、彼らの人生に暗い影を落としたドイツでは、個々の作品が貸し出されたことはあっても、コレクションとして大々的に公開されたことはない。いつか歴史の傷が癒える日が来るのだろうか。

柿沼 万里江 (パウル・クレー・センター研究員)

Zentrum Paul Klee Monument im Fruchthland 3, 3000 Bern

アンリ・マティス 《コリワールの室内(シエスタ)》1905年



## チューリッヒ近郊イベント情報

## 第25回ラテン音楽祭 Caliente!

7月1日、8日 18:00 ~、  
7月2日、9日 17:00 ~ 02:00  
Kasernenareal  
Kasernenstrasse 8004 Zürich  
<http://www.caliente.ch>

## チューリッヒ歌劇場

《フィガロの結婚》  
7月1日、3日、7日、10日  
《トリスタンとイゾルデ》  
7月2日、6日、9日  
《ファルスタッフ》  
7月3日、5日、8日、10日  
Tanz Academy Zürich ガラ公演  
Fussspuren XVIII  
7月9日11時~12時半  
[www.operrnhaus.ch](http://www.operrnhaus.ch)  
Sechseläutenplatz 1 8001 Zürich

## チューリッヒ美術館

フェデリコ・フェリーニ  
6月24日~9月4日10:00 ~18:00  
映画の巨匠フェリーニの世界。彼の描いた絵や撮影セット写真、映画の衣装や小道具等が見られる日もある。  
[www.kunsthau.ch](http://www.kunsthau.ch)

ワークショップ  
「ヴァーチャル・リアリティ」

Chipperfield-Bau, Kunstvermittlung  
要予約  
7月2日、8月27日 14:00 ~ 17:00  
7月7日 17:00~20:00  
Heimpl. 8, 8001 Zürich  
Kunsthau Zürich (Erweiterungsbau)  
[www.kunsthau.ch](http://www.kunsthau.ch)

## 第2回 スイス・ストリート・フード賞

swisststreetfoodawards.ch  
7月 8日 16:00 ~ 22:00  
7月 9日 11:00 ~ 22:00  
7月10日 11:00 ~ 20:00  
IM VIADUKT  
Viaduktstrasse 8005 Zürich  
来場者も投票できる最優秀店は10日  
18時に発表され、15カ国が競う  
ヨーロッパ・ファイナルに進める!

## 日本映画プログラム

「天気の子」7月2日、9日 16:30 ~  
「AKIRA」7月3日、10日 21:15 ~  
「あん」7月4~6日 18:00 ~  
「TOKYO!」7月7日 21:15 ~  
「Like someone in Love」

7月11日、12日 20:15 ~  
「誰も知らない」  
7月13日 20:15 ~  
Kino Xenix  
Kanzleistrasse 52, 8004 Zürich  
[www.xenix.ch](http://www.xenix.ch)

## オープンエア・シネマ

7月21日~8月21日  
19:00 ~ 24:00  
Open-Air Kino Allianz am See  
Zürichhorn 8008 Zürich  
<https://zuerich.allianzcinema.ch>

## 第29回ストリート・パレード

8月13日 13:00スタート  
Utoquai~Bellevue~Quaibrücke~  
Bürkliplatz~Hafendamm Enge 周辺  
[www.streetparade.com](http://www.streetparade.com)

## 第56回リマト川遠泳

8月20日  
12時スタート  
Frauenbadi  
Barfussbar Stadthausquai 12  
8001 Zürich  
[www.limmatschwimmen.ch](http://www.limmatschwimmen.ch)

## 5月JCZ企画

## イベント感想文

アールラウは1248年にキープルク家が築き、男系後継者が途絶えた為、ハプスブルク家が相続しました。その後1798年ヘルヴェティア共和国が成立し、数ヶ月間その首都とされたそうです。旧市街の中で特に印象に残ったのは、建物の屋根の内側に描かれた絵、これらは建物ごとにそれぞれデザインが異なり、とても可愛いく美しいものでした。また、Stadtkircheのステンドグラスと、現在は市庁舎として使用されている歴史ある建築物"TurmRore"にあるステンドグラスは、いずれもスイス生まれの絵本作家Felix Hoffmanによる作品だそうです。もうひとつ、こじんまりとした市街地のObertorturm(塔)の下をギリギリで通り抜けるバスの運転テクニックもなかなかのものでした。まだまだ見どころ満載のアールラウ。Wakaraさんの唐揚げランチと街のカフェでひと休みしながらの散策はおすすめです。お土産には、旧市街地のcoopやSBBアールラウ駅のcoopで購入できる"BACHFISCH"というお魚の形をした手のひらサイズのマドレーヌのようなお菓子をぜひ!

今回、この街の歴史に触れることができてとても良かったです。また機会があれば参加したいです。坪川さん、企画してくださったスタッフの皆さん、ありがとうございました。(H.W.)



## JCZ事務局からのお知らせ

## 発売予告 遂に完成!

## 「妊娠と出産のハンドブック」

JCZでは、旧婦人会の「妊娠と出産のしおり」を大幅に改訂、専門家の方々とボランティアスタッフの協力により編集作業を続けてきましたが、もうすぐ発売を開始できる見通しとなりました! スイスで妊娠期を過ごす方、出産を迎える方々に日本語で情報を提供する新たな手引き書。会員・非会員を問わず、皆様のお役に立てれば嬉しい限りです。詳細は当会HPでもご案内しています。



価格：会員 25フラン  
非会員 35フラン

【ご購入お申込み】  
HPの問い合わせフォーム、又はメールでお申込みください。 [jcz@japanswiss.ch](mailto:jcz@japanswiss.ch) ご注文いただきました方への発送は、7月中旬以降になる予定です。

## 7月合同企画&amp;アフタヌーンカフェ

今回は夏休みに向けて、アフタヌーンカフェ特別版を7月の企画としたいと思います。場所は以前JCZの新年会の景品でもお世話になったことのあるMIYUKO-Tearoom/Caféで開催します。今年に入ってカフェの場所がParadeplatzにほど近いBärengasseに移転しました。和のテイストが感じられる空間でおしゃべりしませんか? テーブルを予約しますので、7月11日までに申し込みください。

日時：7月14日(木)  
14:00 ~ 16:00  
場所：MIYUKO Tearoom/Café  
Bärengasse 20, 8001 Zürich  
申込：JCZ ホームページ  
イベント申込フォームより、またはメールにてお申し込みください。  
[kikaku@japanswiss.ch](mailto:kikaku@japanswiss.ch)

## 日常ドイツ語サポートサービス

日頃ドイツ語が分からなくて困っていることはありませんか? JCZではそういった方々のサポートを行なっています。ご利用になりたい方は、いつでもメールでご相談ください。

申込先：JCZ事務局  
メール：[jcz@japanswiss.ch](mailto:jcz@japanswiss.ch)  
サポートの内容にもよりますが、10フラン程度を寄付という形をお願いしています。

# KETTE

Vol.160

藤田 万智子さん  
(チューリッヒ在住)

## お仕事は？

現在は、主人の仕事の都合でスイスにきているため、仕事はしていませんが、日本では助産師をしていました。助産師とは妊娠、出産、産後ケア、新生児ケアなどを専門とする看護職の一種で、かつて産婆さんと呼ばれていました。助産師は、母子の生死に関わる責任を伴う仕事ですが、生まれてくる赤ちゃんは全ての苦勞を吹き飛ばしてくれるほど可愛く、幸せを得られる仕事です。

助産師になるきっかけを考えたとき、高校生の夏休みを利用してパングラデシュの小学校にトイレを作るというボランティア活動に参加したことを思い出します。そこでは、生きた鶏を買ってさばく体験をしたり、電気が通っていないため、子供たちがロウソク1本の明かりで勉強しているのを目の当たりにしたりしました。そこで学んだ日本とは全く異なる世界、またそこに住む人たちに役立つことができるという体験は、後に青年海外協力隊への参加の動機になりました。助産師を選んだのは、元々看護師を志しており、青年海外協力隊としての需要が高かったことが理由です。

## 影響を受けたことは？

影響を受けた出来事というと、実際に2016年～2018年にモロッコという国で助産師として青年海外協力隊に参加したことです。当初はモロッコという国の場所も曖昧でしたし、イスラム過激派ISのテロが多発している時期でしたので、イスラム教の人たちに対する無知ゆえの不安がありました。ですが、行ってみる

とモロッコ人は世話好きな人が多く、困った際はいつも周りの人が助けてくれ、その不安はすぐにはなくなりました。

もちろん、文化の違いからくるトラブルも多く経験しました。私は初めての海外生活でモロッコ語もろくに話せないため、初めの頃はボランティアをしているのか、ボランティアをされに来ているのか分からない状態で、言葉の壁に葛藤する日々でした。



また、私が派遣された地域ではアジア人は珍しく、子ども達から「中国人」といわれ追っかけられたり、買い物をしたりタクシーに乗ると法外な値段を請求され、道を歩けば物乞いからもターゲットにされました。知らない男性が頼んでもないのに勝手に道案内してお金を請求してくる、家具・家電が壊れると門番さんが入ってきて長居して修理してくれるが、次の日にまた壊れる、などなど、毎日ハプニングの連続でしたが、今思えば全て良い思い出です。

活動は妊婦健診の質の向上、妊娠期・出産後の母親教室の普及を行っていましたが、母親教室を開催しても時間通りに来る妊婦はいませんし、医療スタッフに向けての研修会をしても同じです。それでも毎日一緒に働くことで、スタッフや妊婦さん達と少しずつ心を通わせて前に進むことが出来ました。以前は、「経済

や医療の発展=幸せ」と思っていました。が、信仰心や自分自身、家族を大切に過ごし、幸せそうなモロッコ人を見て、その考えが改まりました。そして心は私よりよっぽど豊かそうな彼らを見て、自分自身を大切にするという大切さを学びました。結局、自分が思い描いていたボランティア活動とはほど遠い毎日でしたが、いろんなことを知り、学び、考える機会になりましたし、様々な職種の方と知り合うことも出来ました。貴重な体験ばかりだったので本当に行きたくて良かったと思っています。

また、モロッコはカラフルでフォトジェニックな街並み、豪華な幾何学模様があしらわれたモスク、サハラ砂漠などの観光名所が多くあり、陶芸や刺繍、革製品の伝統工芸も有名なども素敵な国です。是非ご興味あれば訪れてみてください。

## スイスにいらしてから

スイスは自然豊かな国なので、街並みや山・湖の景観が美しく、週末に林道を散歩したり、サイクリングをして農場に行くなど、自然を身近に感じることが出来て、とても癒されています。また、ヨーロッパには行ってみたい国がたくさんあります。やっとコロナウィルスの状況も落ち着いてきたので、これからの旅行が楽しみです。お勧めの場所があれば是非教えてください。

## ご出身は？どんな所？

兵庫県の猪名川町という、自然豊かな場所で育ちました。学校帰りには田んぼ道を通り、野生のシカや猿が出るような田舎です。しかし、近年都市開発が進み便利になった一方で、農地も減り、子どもの頃に川で見たオオサンショウウオや蛍も減ってきているので、寂しく思っています。

スイスでは国による農業への積極的な改革や補助、景観の保護や生物多様性の維持に対しても取り組みを行い、スイス国民もスイス産を好んで買うことで国内産業を守っているように感じます。日本でも取り入れて買いたいなと思いました。

## 編集後記

先日ベスカラで一足早く海辺を味わったので、皆様にも夏をお届けする今号です！イタリア中部、アドリア海沿いの街には約100年の歴史を誇るピアノ製作会社Fabbriniがあります。スタンウェイと共同製作したり、ポリーニは世界中にFabbriniのピアノと社長を連れて回ることでも有名です。5月にチューリッヒで演奏したソコロフもコアな顧客の1人です。日本やイギリスなどが彼の生演奏を待ち侘びる中、スイスで聴けるのはラッキーなことなのだと会員の方に教わり、コアなファン層と一緒に興奮した公演の記憶が蘇ってきました。そんな企画を実現してくれるHochuli.AGに感謝しつつ、来年5月13日もレアなライブ体験をお勧めします！hochuli-konzert.ch  
皆様、良い夏を！(S.N)

## 広告掲載のご案内

ジャパンクラブチューリッヒでは、会員の方からのお知らせ・広告掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料(一部無料)で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

## 伝言板コーナーをご利用ください。

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前(会員に限る)を入れた原稿を毎月10日までに編集部までメールにてお送りください。

\*JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

## JCZ会報誌エーデルワイス

2022年7・8月号

発行責任者：青砥 玄(会長)

編集：中 東生

レイアウト：鎌田 裕子

## ※編集部専用メールアドレス※

edelweiss@japanwiss.ch

## JCZ Japan Club Zurich

Office of Honorary Consul  
General of Japan  
Utoquai 55, 8008 Zürich  
www.japanwiss.ch  
jc@japanwiss.ch

